

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年6月24日（火）

2 確認箇所

- ・瓦礫類一時保管エリアN（図1）
- ・増設多核種除去設備（図1）

3 確認項目

- （1）瓦礫類一時保管エリアNの状況
- （2）増設多核種除去設備の現況

4 確認結果の概要

（1）瓦礫類一時保管エリアNの状況

東京電力は全ての固体廃棄物（ただし、水処理二次廃棄物および再利用・再使用対象を除く）の屋外における一時保管を令和10年度中に解消することを目指している。その一環として、瓦礫類一時保管エリアN（以下「エリアN」という。）においてノッチタンクに保管されている汚染土壌※を別の保管容器に入れ替え、固体廃棄物貯蔵庫へ運搬する計画としている。

6月末からエリアNに設置された屋根の撤去が開始され、7月初めにはノッチタンクの蓋を開放する作業が予定されていることから、当該エリアの状況を確認した。（前回確認：令和7年6月23日）

- ・エリアNの周囲は、足場が組まれており、関係者以外の立ち入りを禁止する措置が取られていた。（写真1）
- ・前日設置作業中だった堰外側土のうの設置と防水塗装の吹きつけが完了していた。（写真2）
- ・堰の外周に新たに設置された土のうにより、雨水の堰内への流入は防がれ、堰内の浸水は認められなかった。（写真3）
- ・天井鉄骨は堰やノッチタンクと固定されていた。（写真4）
- ・プラスチック製の部材が用いられた歩廊には、「スベリ・転倒注意」の注意喚起が示され、安全対策が施されていた。（写真5）
- ・確認した範囲において、重機からの油漏れやノッチタンクからの漏えいは認められなかった。

※平成25年及び平成26年に発生したタンクエリアからの汚染水漏えいにより汚染した土壌。これらの土壌は土のう袋に回収され、ノッチタンクに入れて保管されている。

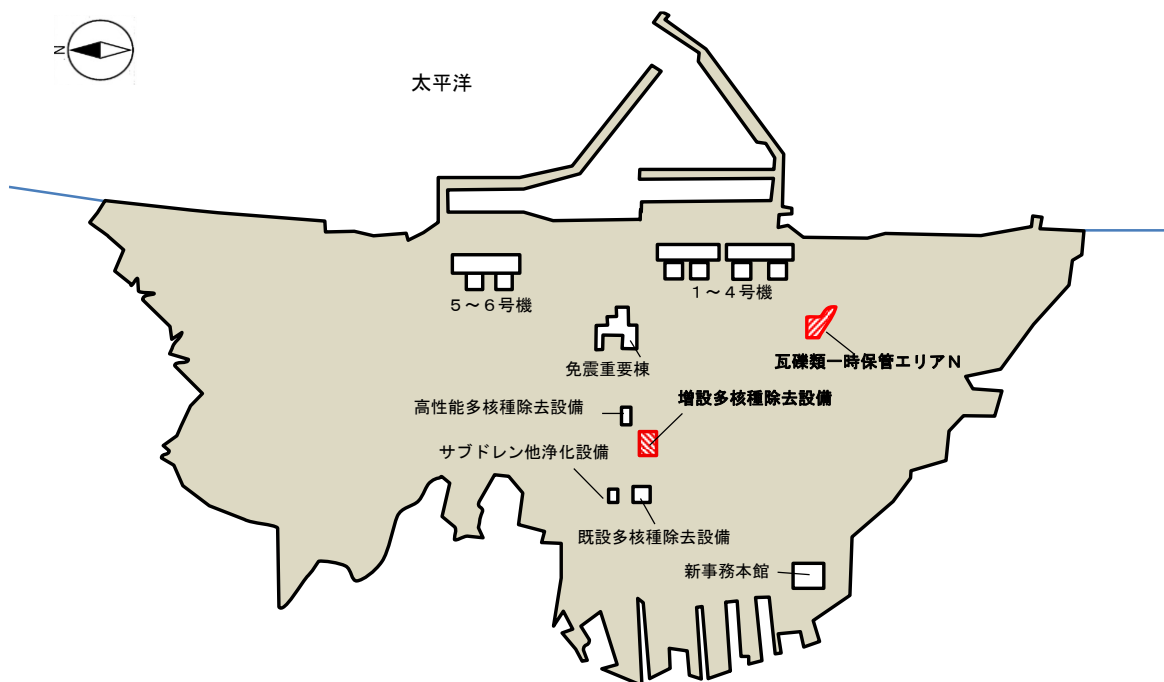
(2) 増設多核種除去設備の現況

福島第一原子力発電所では「増設多核種除去設備配管洗浄作業における身体汚染(令和5年10月)」や「高温焼却炉建屋からの放射性物質を含む水の漏えい(令和6年2月)」など、汚染水処理設備に関するトラブルが連続して発生している。そのため、汚染水処理設備の運転状況や設備機器の点検状況を適宜、継続して確認している。

本日は、増設多核種除去設備(以下「増設ALPS」という。)建屋内で実施されている作業等の状況を確認した。(前回確認：令和7年6月23日)

- ・HIC※払い出しエリアにおいて、クリーンハウスの移設作業が行われていた。移設にはクレーンを使用しており、クレーン移動開始時の警報や手信号等が適切に実施されていた。(写真6)
- ・移設後、ふき取りによる汚染検査が実施されていた。(写真7)
- ・増設ALPSは、A系、B系及びC系の3系統で構成されている。当日はA系の吸着材充填作業が行われていた。吸着材はポンプで吸着塔まで移送され充填されていた。(写真8)
- ・確認した範囲において、配管や設備からの処理水等の漏えいは認められなかった。

※HIC(High Integrity Container:高性能容器)は、汚染水の処理をする際に発生する泥状物及び使用後の放射性物質吸着材を保管するための容器。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1①)一時保管エリアNの外観



(写真1②)一時保管エリアNの外観



2025/06/24 撮影

(写真2①)土のうの設置状況



防水塗装未実施の土のう

2025/06/23 撮影

(写真2②)土のうの設置状況



雨水排水管

(写真3)雨水の排水状況



(写真4)建屋の固定状況



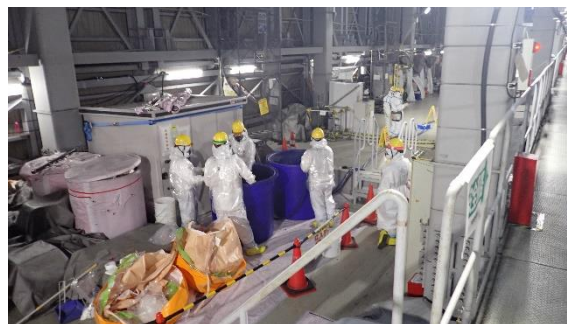
(写真5)注意喚起



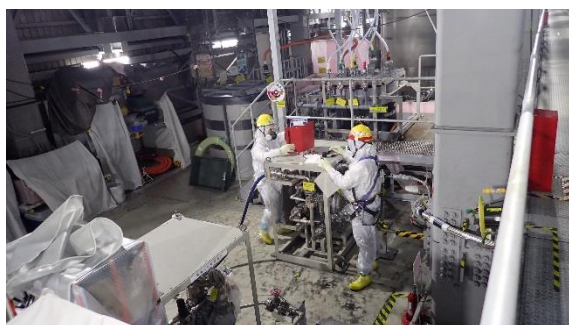
(写真6)クリーンハウスの移設作業



(写真7) 汚染検査の実施状況



(写真8①) 吸着材の吸い上げ



(写真8②) ポンプによる吸着材の移送



(写真8③) 吸着材の充填

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。